

主要インフラの復興パターン

A案：現状復興案


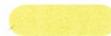



常盤線：現在位置

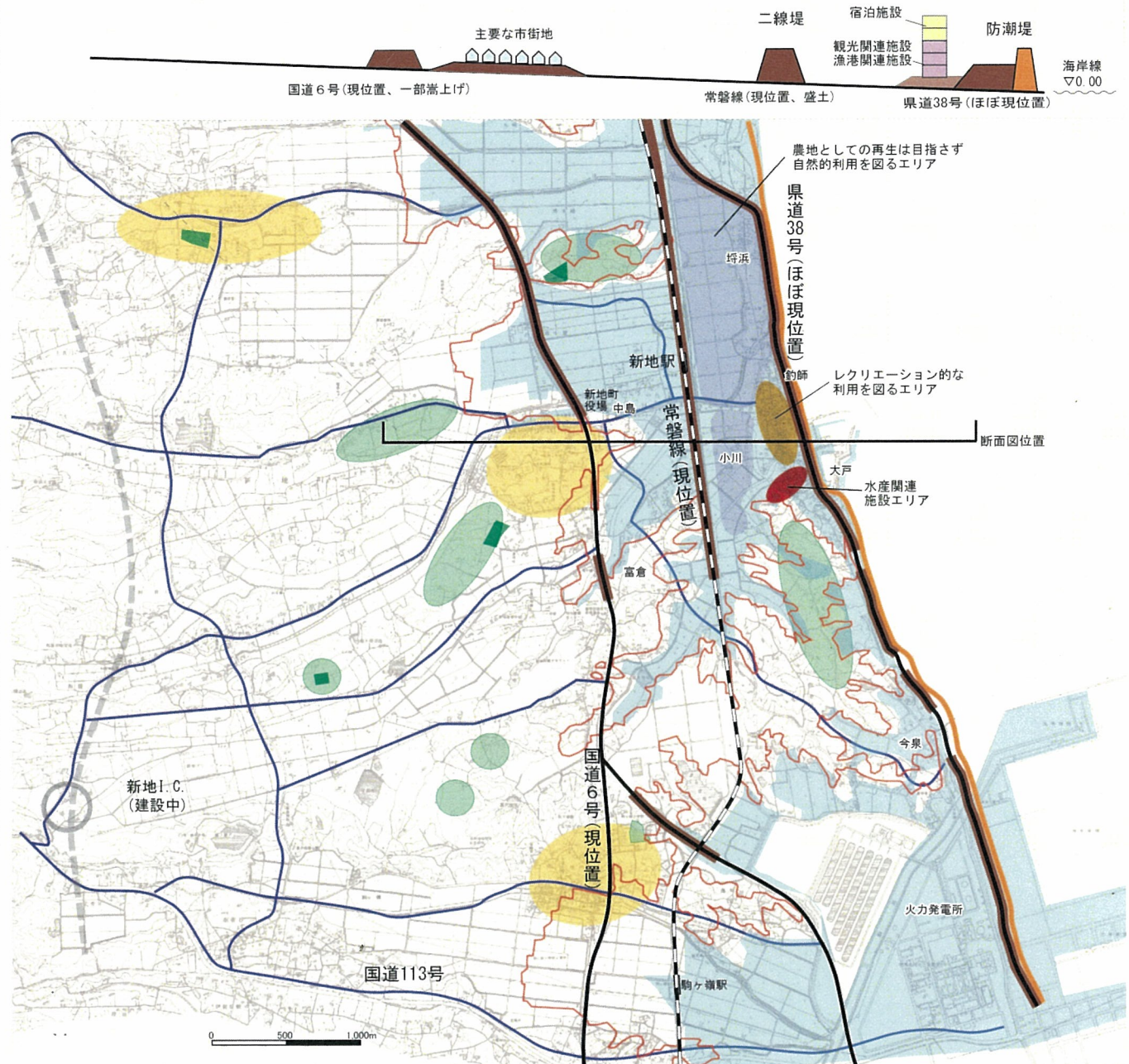
(主)相馬亘理線：ほぼ現状位置

国道6号：現状位置

【考え方】

- ①二線堤を常盤線とし、高盛土で整備
- ②町の構造は大きく変えない
- ③常盤線の海側は、自然的利用、産業・観光レクリエーション利用とする
- ④沿岸部の全壊集落は、標高 10m以上の場所で再生

-  浸水区域
-  既存市街地
-  集落再建候補
-  県道・主要町道
-  標高10m等高線



主要インフラの復興パターン

B案：中心部拡充案

常盤線：山側へ移設

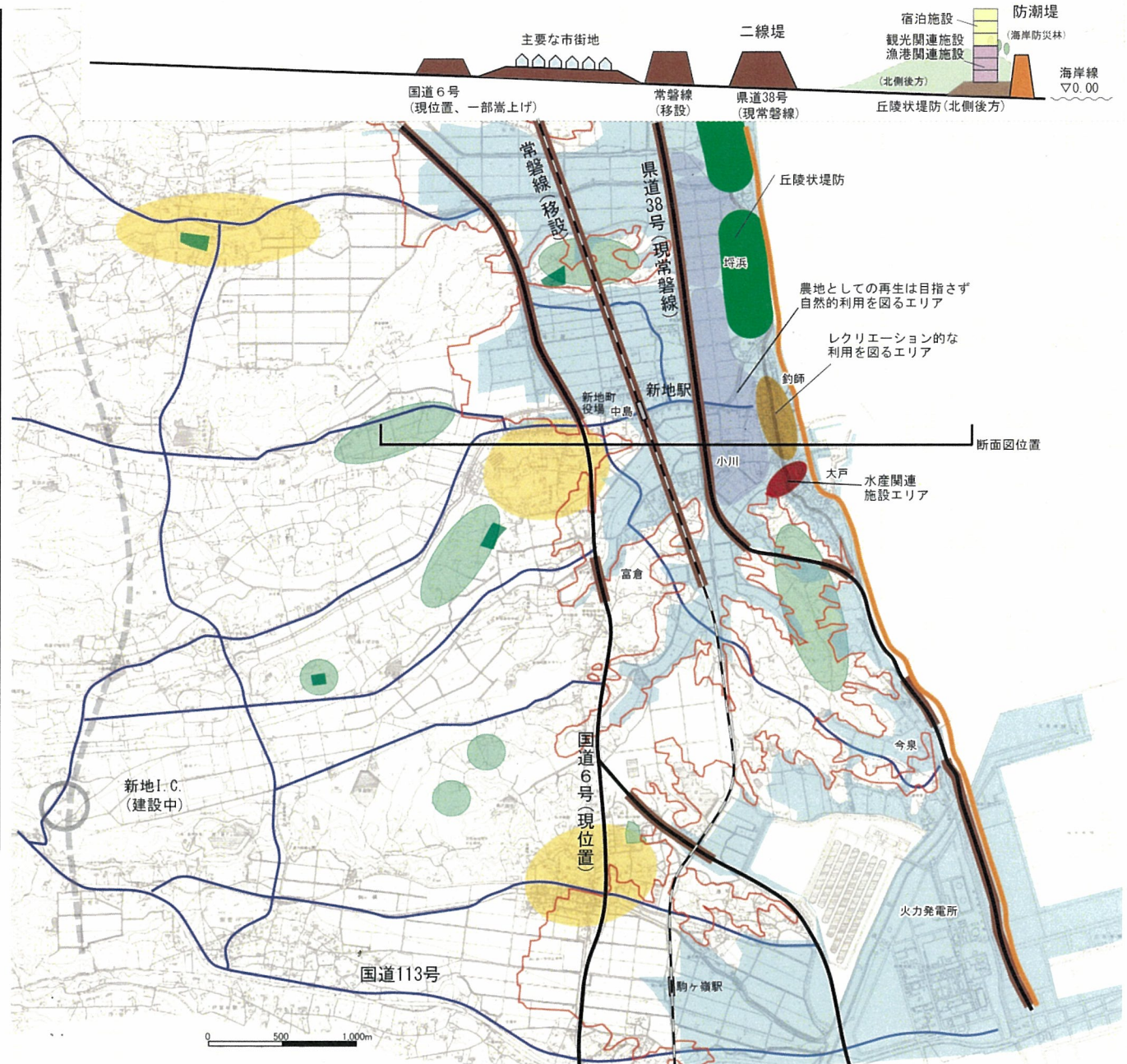
(主)相馬亘理線：現常磐線の位置へ

国道6号：現状位置

【考え方】

- ①二線堤を(主)相馬亘理線とし、現常盤線の位置に、高盛土で整備
- ②新しい新地駅を、役場付近に移設し、中心部の市街地整備と連携して整備
- ③常盤線の海側は、自然的利用、産業・観光レクリエーション利用とする
- ④沿岸部の全壊集落は、標高 10m以上の場所で再生

- 浸水区域
- 既存市街地
- 集落再建候補
- 県道・主要町道
- 標高10m等高線



主要インフラの復興パターン

C案: 中心部拡充案(2)

常盤線: 山側へ移設

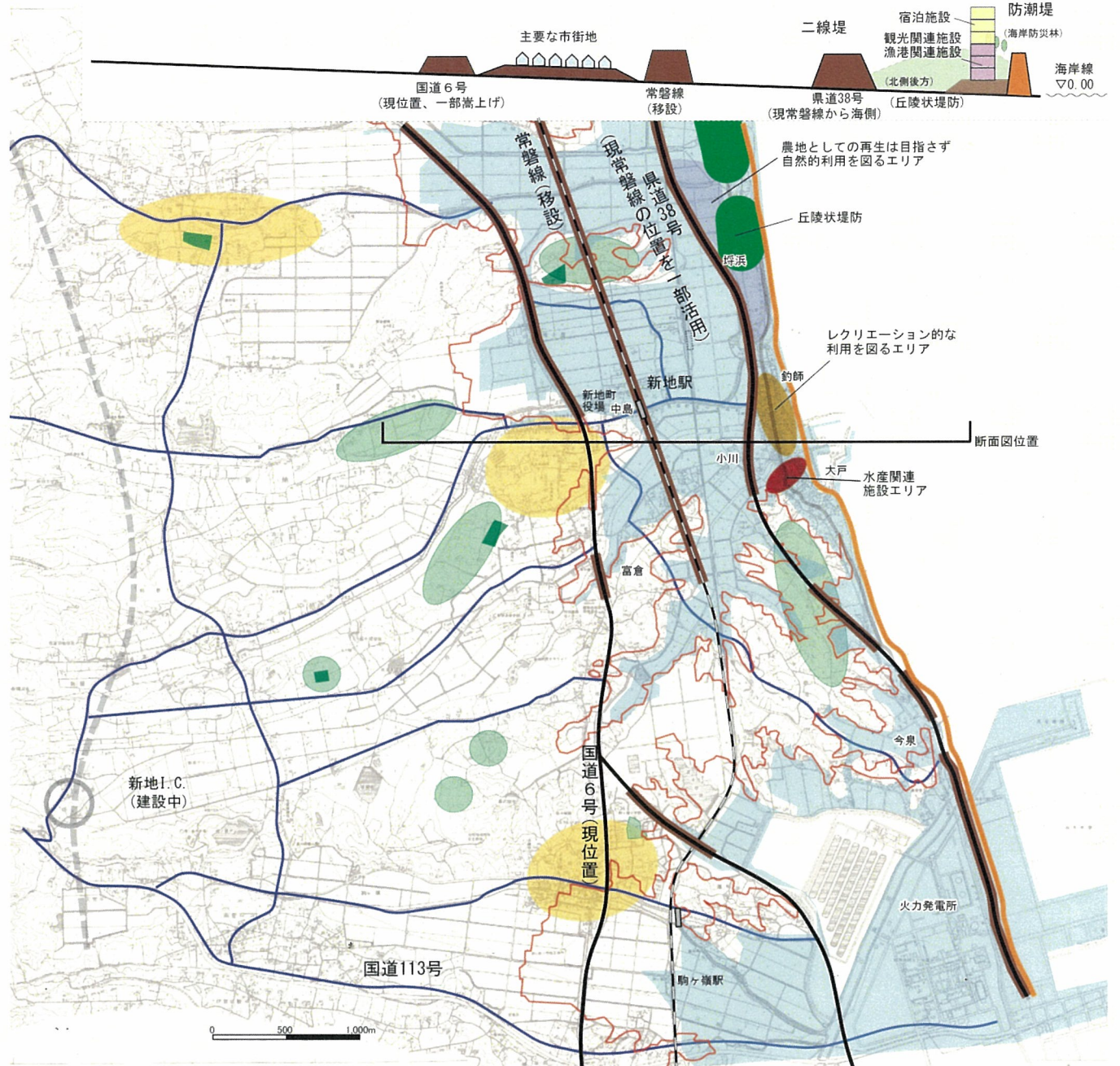
(主)相馬亘理線: 現常盤線と海岸の間

国道6号: 現状位置

【考え方】

- ① 二線堤を(主)相馬亘理線とし、現常盤線と海岸の間に、高盛土で整備
常盤線の海側に移すことで、沿岸部の農地の再生、下水処理場の安全性を確保
- ② 新しい新地駅を、役場付近に移設し、中心部の市街地整備と連携して整備
- ③ 常盤線の海側は、自然的利用、産業・観光レクリエーション利用とする
- ④ 沿岸部の全壊集落は、標高 10m以上の場所で再生

- 浸水区域
- 既存市街地
- 集落再建候補
- 県道・主要町道
- 標高10m等高線



主要インフラの復興パターン

D 案: 中心部拡充案(3)

常盤線: 山側へ移設

(主)相馬亙理線: ほぼ現状位置

国道6号: 現常盤線の位置へ

【考え方】

- ① 二線堤を国道6号とし、高盛土で整備
二線堤が高規格の国道となれば、二線堤の機能は強化される。一方(主)相馬亙理線の重要性は低くなる。
- ② 新しい新地駅を、役場付近に移設し、中心部の市街地整備と連携して整備
- ③ 常盤線の海側は、自然的利用、産業・観光レクリエーション利用とする
- ④ 沿岸部の全壊集落は、標高 10m以上の場所で再生

- 浸水区域
- 既存市街地
- 集落再建候補
- 県道・主要町道
- 標高10m等高線

